

12/6 朝日

## 高齢者集中する病院や福祉施設

# 相次ぐクラスター 死者急増

新型コロナウイルスの「第3波」で急増している死者。北海道や大阪では、重症化しやすい高齢者が集中する病院や高齢者施設で大規模なクラスター（感染者集団）が起き、死者数を押し上げている。東京では春の「第1波」で起きたような病院や施設でのクラスターの発生は抑えられているものの、中高年世代の感染者が増えている。

▼1面参照

## 入院患者 旭川が深刻

### ●北海道

北海道では11月以降、6716人が感染し、1531人が死亡した。死者は年初から10月末までは110人で、その後わずか1カ月余りで、それを上回る人が亡くなつたことになる。人口33万人の道内第2の都市・旭川市では11月6日より多くの高齢者が多く入院する吉田病院（2663床）でクラスターが発生。これまでの感染者は183人に上る。さらに、11月下旬には救急患者やコロナ患者を受け入れている基幹病院の旭川厚生病院（499床）でもクラスターが起き、5日までに221人が感染。

国内の医療機関のクラスターでは、第1波の永寿総合病院（東京）と並び、最大率を縮小して需要の分散を図る。赤羽氏は5日、民放番組に出演。大型連休ぐらいから割引率を縮めて事業を軟着陸させてほしい、という要望が旅館やホテルの関係者にあることを紹介。「私も当然そうだなど考へて」と述べた。

## 重症判断なく急変も

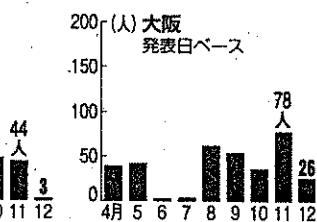
### ●大阪

大阪府では「第3波」の急拡大で医療体制が逼迫し、府は独自基準「大阪モデル」で非常事態を示す「赤信号」を初めて点灯させた。死者も急増し、11月は過去最多の78人。「第2波」で最も多かつた8月の62人を大きく上回った。

11月の死者78人のうち6人は府は、死者増加の背景には、相次ぐクラスターの発

旭川市で11月以降に死亡した33人全員がこの2病院の入院患者だった。市保健所の担当者は「元々、入院患者は寝たきりの高齢者や重い病気の人が多く、感染が重なつて残念な結果になつたのではないか」とい

う。札幌市では11月以降、62件のクラスターが発生。うち医療機関が14件、高齢者・障害者施設が15件と半数近くに及ぶ。特別養護老人ホーム「ドリームハウス」ではこれまでに114人（入所者86人）が感染し、すでに6人が死亡している。（本田大次郎、芳塩文子）



## 第一波の教訓 進んだ対策 ●東京

死者が511人（5日時点）、全国で最多の東京都。11月に入つて死者数は春の「第1波」と比べて大幅に抑えられている。都によるると、月別の死亡日ベースの死者同様は4月が最多の181人で、5月が107人と続く。感染者数では春を上回つた「第2波」の8月が32人、9月が47人、10月が48人と推移し、感染者数が減つた要因は病院でのクラスターの発生を比較的抑えていたことだ。第1波では、永寿総合病院（台東区）で6月までに患者43人が死亡。中野江古田病院（中野区）でも7月までに患者29人が亡くなった。都によると、第2波以降は、患者が10人を超える規模で死亡するクラスターは確認していない。春からの経験を踏まえ対策が進んだ効果があるという。検査体制が拡充されたことも、死者数を抑える要因になっている。都の分析では、発症から入院までの日数の中央値は5月までは7日だったのに対し、6～9月では5日に短縮された。ただ、50代以上の感染者は11月が3153人以上り、第2波の8月の1806人と比べて1・7倍に増加。高齢者に感染が広まれば命に関わるリスクが大きい感染者が増えることになる。

（鈴原千明）

すでに6人が死亡している。（本田大次郎、芳塩文子）

生があると分析する。10月10日～11月末に医療機関や高齢者施設など計41カ所でクラスターが起き、感染者は利用者計543人、職員計278人の計821人に上つた。

府が10月10日～11月29日の死者88人について分析したところ、感染経路は「施設等関連」が54%で最も多かった。88人のうち17人は重症病床に入院していくて死亡したが、71人は重症と判定されない状況で亡くなつた。府によると、急に症状が悪化する高齢者や、人工呼吸器の装着などに耐える体力がなく、人工呼吸器が整備された重症病床に移ら